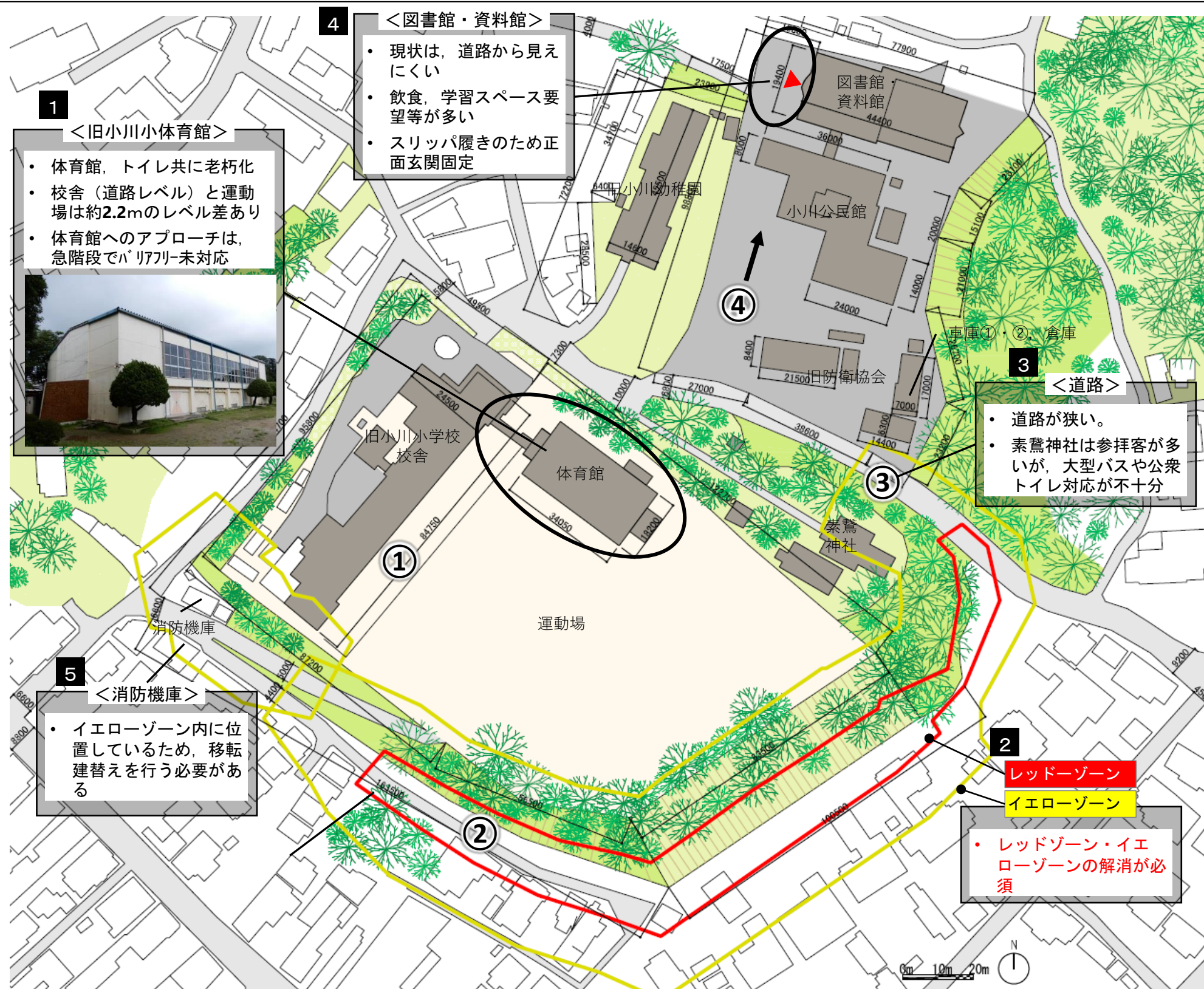


第 3 回委員会資料

1. 計画地の現状と課題のまとめ

<主な課題・前回までの意見>

		(観点)
旧小川小学校	• 体育館, 屋外トイレともに老朽化している。	建物
	• 校舎(道路レベル)と運動場は約2.2mのレベル差があり, 体育館へのアプローチは, 急階段のため, バリアフリー対応が必要	基盤整備
	• 敷地の一部が, レッドゾーン, イエローゾーンに指定されており, 再編整備の際には解消する必要がある。	災害対応
	• 旧小川学校と公民館は指定避難場所になっている。災害の拠点, 避難場所となるような施設が必要ではないか。	災害対応
	• 広い校庭も活用して, 防災基地・防災拠点としてはどうか。	災害対応
小川公民館	• 地域交流の拠点, 生涯学習の拠点は地域の身近な場所にあるべきではないか。	建物
図書館・資料館	• 現状は, 道路から見えにくい。	基盤整備
	• 駐車場が少ない。	基盤整備
	• 飲食, 学習スペース要望等が多い。	建物
周辺道路	• 道路が狭い。	基盤整備
	• 素鷲神社は参拝客が多いが, 大型バスや公衆トイレ対応が不十分	基盤整備
その他	• 消防機庫がイエローゾーン内に位置しているため, 再編整備事業にあわせて, 移転建替を行う必要がある。	その他



再整備の方向性（案）

検討委員会からの意見を反映し、再整備の方向性について以下に整理します。

<再整備の考え方>

- ◎ 再整備により、地域住民の交流及び多世代交流の促進が図られることで、市民の笑顔あふれる賑わいのある場所
- ◎ 小川の歴史や文化を学び、後世に伝える場所（レガシー）
- ◎ 素鷲神社などの地域資源を生かし相乗効果を図りながら、まちづくりや観光に寄与する場所



<整備に向けた基本方針>

歴史と文化の特性を活かした地域交流の場

- ◎ メリハリある整備によって、新たな価値や魅力を創出する場所
- ◎ 学びの場となる生涯学習機能を兼ね備えた場所（人があつまる・まなぶ・まなびあう）
- ◎ 滞在スペースの確保により、人や情報に出会える場所



既存施設、既存敷地の有効活用により新たな価値を創出する場

- ◎ 災害時は、避難場所として活用できる防災機能を備えた場所
- ◎ バリアフリーやユニバーサルデザインを考慮した人にやさしく快適に利用できる場所
- ◎ 急傾斜地解消の促進により、一層の安全安心が図られる場所



安全・安心で人にやさしい快適な場

基本方針案

検討委員会からの意見を踏まえ、以下のとおり基本方針を定めました。旧小川小周辺地域再整備に向け、3つの基本的な方針（案）を挙げます。

① 歴史と文化の特性を活かした地域交流の場

- ◎ 小川城跡が所在したこの地に残る小川稽医館の碑、素鷲神社、小川資料館展示品等のレガシーをつなげることで、小川の歴史や文化を学ぶことができる場所を目指します。
- ◎ 市民の憩いの空間を創出することにより、笑顔あふれるにぎわいのある地域交流の場所を目指します。

② 既存施設、既存敷地の有効活用により新たな価値を創出する場

- ◎ 旧小川小学校校庭を有効活用し、4つのひろば（ふれあい・多目的・健康・ピクニック）で構成する公園をつくり、市民の憩いの場所を目指します。
- ◎ 小川図書館・資料館と（仮称）生涯学習交流施設が連携を図り、人があつまる・まなぶ・まなびあうことができる場所を目指します。
- ◎ 屋外のオープンスペース等の有効活用により、滞在場所を確保することで、新たな価値を創出する場所を目指します。

③ 安全・安心で人にやさしい快適な場

- ◎ いざという時の災害に備え避難場所として活用できる場所を目指します。
- ◎ バリアフリー、ユニバーサルデザイン対応により、誰もが利用しやすい快適な場所を目指します。
- ◎ 急傾斜地解消の促進により、より一層の安全安心な場所を目指します。

3つの基本的な方針（案）を勘案し、再整備の基本コンセプトを下記とします。

基本コンセプト

『歴史と文化の香る にぎわいのある地域交流の場の創出』

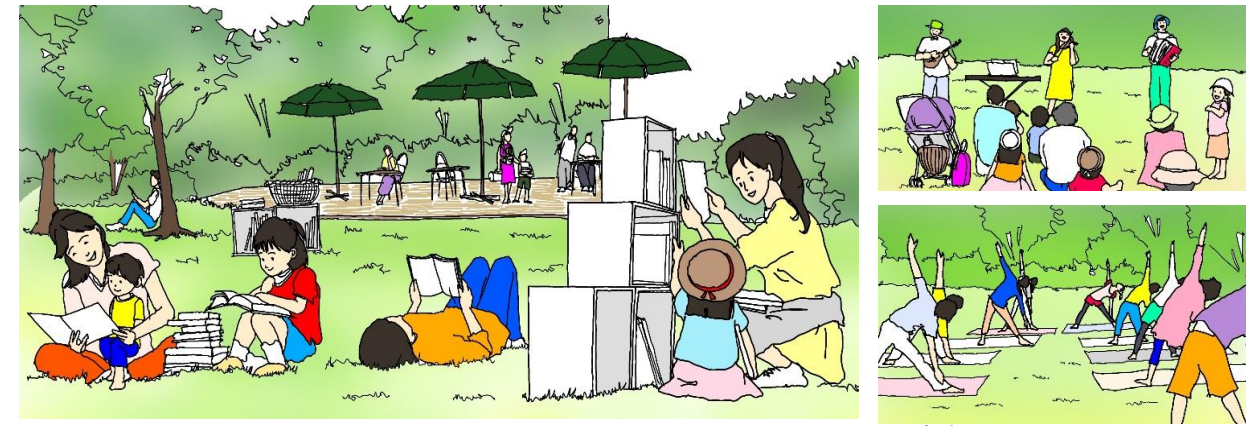
再整備事業案

- 旧体育館は解体し、代替建物として、公民館跡地に生涯学習交流施設(約400㎡)を整備
- 図書館・資料館前は、デッキと芝生の屋外テラスを整備し、生涯学習交流施設と一体的に活用。
- 旧幼稚園跡地に第1駐車場、校舎跡地に第2駐車場、防衛協会跡地に第3駐車場を整備。
- 校庭は遊具や健康器具などの公園器具を配するなど公園として整備し、散策等を通して交流できる空間を計画。また、災害に備えた防災ベンチ(非常時にはかまどに)を設置する。



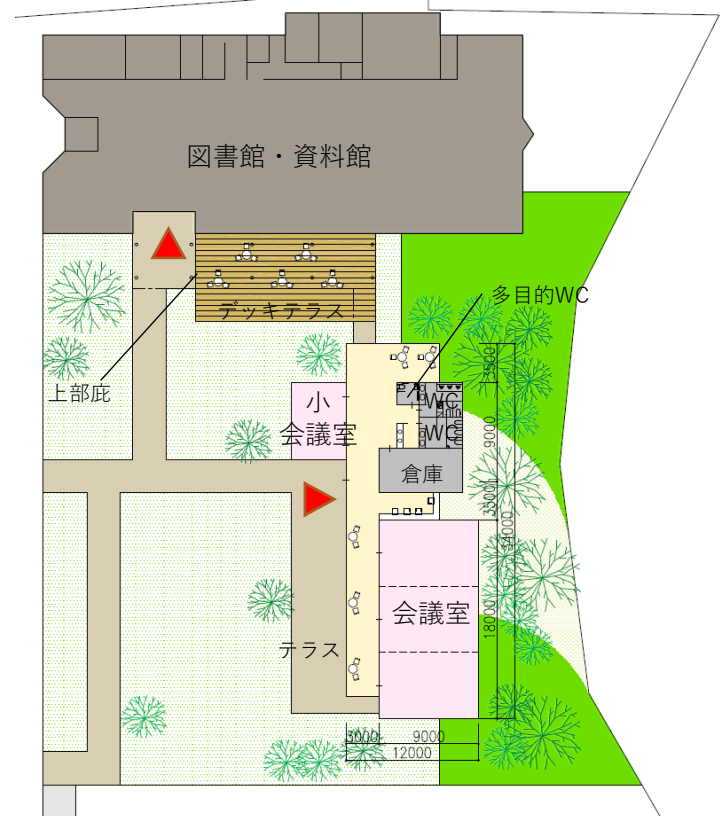
公民館跡地は芝生広場とデッキテラスの広がる、憩いの空間へ

- 老朽化した公民館撤去後の跡地はデッキと芝生の屋外テラスとし、一体的な交流空間を計画。
- 芝生の屋外広場とデッキテラスでは、借りた本を読んだり、天気の良い日には『青空図書館』を開催するなど子どもから大人まで過ごせる憩いの場に。また、芝生でヨガ、芝生で音楽会、芝生でマルシェ、芝生で読み聞かせ会など、地域の文化交流の場所としての活用も期待できる。



地域の人々がゆったり過ごすことができる、平屋の交流スペース

- 生涯学習交流施設は、大きな屋根に覆われた平屋建てとし、屋外テラスに対して開かれた施設として計画。
- 施設は間仕切りで広さが調整できる会議室と自由に休憩できるラウンジを整備する。
- 間仕切りを取り外せば広く一体利用できる会議室は、講座やさまざまなサークルの活動や集会のスペースとして活用。小さく仕切れば、ちょっとした会合をはじめ、子どもたちの学習スペース等に利用できる。
- テラスにも休憩スペースを用意し、ランチや休憩等に活用できる。
- 生涯学習交流施設の整備とあわせて、図書館・資料館の正面玄関をテラスに面した位置に改修する。



参考プラン(※2) 生涯学習交流施設(約400㎡)
(次ページ詳細)

校庭は散策路やピクニック広場等を整備する公園へ

- 校庭の外周に緑豊かな散策コースやピクニック広場を整備して、くつろぎの場を演出。
- 芝生が広がる公園内にはさまざまなインクルーシブ遊具や健康器具を配し、多世代が活動できる空間を計画。



※1: 外灯・ベンチは位置が分かりやすいよう実物より大きく表現しています。 ※2: 本プラン案は、主な機能を具体的に配置するためのイメージでこの案を確定するものではありません。また建築基準法、消防法等関係法令等に準じて変わることがあります。